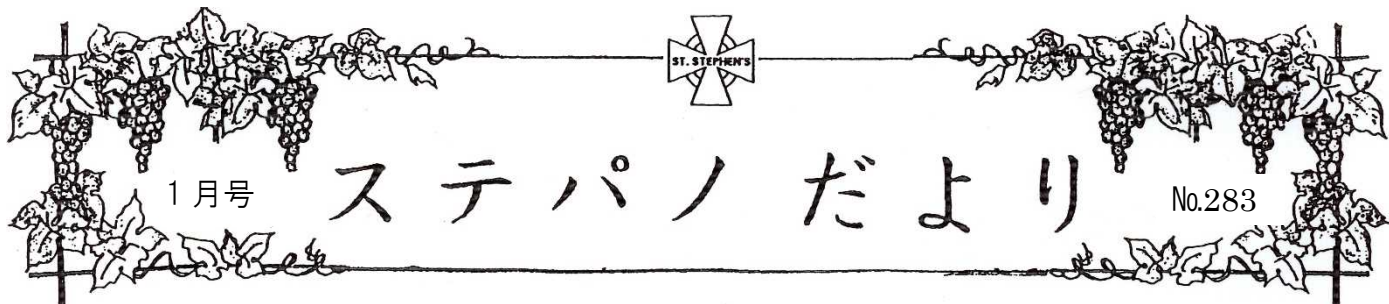




1月号

ステパノだより

No.283

今月の聖句

『人にしてもらいたいと思うことを、

人にもしなさい。』

ルカによる福音書

第6章 31節

◎1月の予定

5日(金) 教職員協議会

9日(火) 三学期始業礼拝・聖書教室

10日(水) 体験学習(中) (～12日)

入学願書受付(中) (～11日)

12日(金) 小学校入学考査(～13日)

自宅学習日(小)

17日(水) 体験学習(転入) (～19日)

19日(金) SAの集い

26日(金) 教職員協議会

28日(日) 大磯一周駅伝(陸上競技部)

31日(水) マラソン大会(大磯運動公園)

◎2月の予定

1日(木) マラソン大会予備日

2日(金) 中学校入学考査(～3日)

自宅学習日(中)

8日(木) 授業参観(～9日)

9日(金) 校内研修会

クリスマス礼拝

平塚聖マリヤ教会の島田司祭の司式により行われました。いつもよりたくさんのお祈りを賛美し、多くの聖書の言葉に耳を傾けながら、主イエス様の降誕を喜び、お祈りをおささげいたしました。



あけましておめでとうございます

1月6日に顕現日を迎え、クリスマスのお祝いが一段落し、いよいよ今年度のまとめとなる三学期が始まりました。

学年が上がれば、自然とそれにふさわしい役割が与えられていきます。三学期は今年度のまとめであると同時に、進級と卒業を控え、来年度への心構えをする期間でもあります。

どうぞ子どもたち一人ひとりの成長をお祈りください。

◎今月の行事から

☆マラソン大会 1月31日(水)

今年度も大磯運動公園を使用して頂き、マラソン大会が行われます。

当日は中学生(3.1km)が最初にスタートします。小学生は小5～6年(2.2km)、小3～4年(1.7km)、小1～2年(1.2km)と順次、時間差でスタートしていきます。

マラソンでは、自分の足で一步一步進んだその先に必ずゴールがあります。長距離走ゆえ、辛い部分もありますが、それはまさに自分との闘いです。子どもたちには常に自己ベストを目指して走り切ってほしいと願っています。

当日は皆様の温かな応援で全ての子どもたちの背中を後押しし、支えていただくと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



『聴く力』

校長 佐藤 紀明

人前で話することが苦手なところがあり、以前、話し方の教室に通ったことがあります。最初に教わったことは「話し上手は聴き上手」ということで、人の話をよく聴くことが人前で上手に話せるようになるということでした。人前で話せるようになりたいと思って受けた講座が、聴くことの大切さを学ぶとは思っていませんでした。ビジネス、人生の苦難や問題を切り抜けるためのスキルは、話し方や伝える力、頭の回転の速さ、ロジカルシンキング、フレームワーク等ではなく、『聴く力』が人生を生き抜く最強の武器だと学びました。特に教師は、自分の話は良くするが、人の話をよく聴かない人が多いとも言われました。『聴く力』は『相手を理解する力』でもあります。相手を理解するには、相手の話の内容を理解すること、相手の気持ち（感情）を理解することがあり、さらに相手をより深く理解するには、相手の話を聞く際に、自分の解釈を加えないで、ありのままに話を聴き、途中で口を挟まないようにして、言葉以外のメッセージに意識を向けて聴くようにすると相手の気持ちもわかるようになっていきます。話している相手の顔の表情、声のトーン、身体の姿勢、緊張具合など、相手の話の内容と相手の気持ち、2つの視点で聴くことが、本当の『聴く』ということになるのです。

人間関係のほとんどの問題は、自分が理解・共感してもらえないことから起こります。相手に対し、どれだけ言葉を尽くして語ったとしても、相手に対する理解しようという思いや共感がなければ、人は動いてくれません。人と信頼関係を上手く作るには「自己理解、相手理解、相互理解」が大切ですが、信頼関係を構築する時も『聴く』から始まります。これまで多くの人達と接してきましたが、『聴く』ことについて、自分が学んだことをその通りに実践している方が一人いました。小川正夫前学園長です。それは、自分と同じ講座を受講したのでは？と思ったくらいです。小川先生は、私の前で権威的なこともなく、上下関係も意識せず、話しやすいように安心して安全な場所を作ってくれました。安心して話せる約束事も明示してくれました。今、思うと失礼な発言も多かったと思いますが、心が開け、本音で話すことができました。また、私の話を遮ることなく、途中で絶妙な『繋ぎ言葉』を使われていました。例えば、「そうだったんだね」「具体的には」「他には」など、自分の話に意識が向けられていることが実感でき、いろいろなことが話せました。そして、私に対しては、指示命令よりも、考え行動していける聴き方が多かったのです。「佐藤さんはどう考える？どう判断する？」尋問になるのではなく、私を受け止め、深く考えさせる質問を多くしてくれたからこそ、深く考え、行動できる力がついたと思います。

人前で話すことが苦手な人の特徴は、

- 警戒心が強く心を開くのに時間がかかる
- 控えめな性格で自己主張が得意ではない
- 緊張しやすく会話だけでなく恋愛も苦手
- 自己肯定感が低く、自分に自信がない
- 周囲の人や物に対して興味や関心が薄い

また、話すのが苦手と感じてしまう原因は、

- どう思われるか過度に気にしすぎている
- 面と向かって話す機会が減っている
- 何を話せばいいのか思い浮かばない

この中のどれかに当てはまる自分がいます。自己分析することが、自己理解に繋がります。そして人と会話するのが苦手な面を直す上で、人と会話する上手なコツを身につけておけば、対面での会話の苦手意識も改善できるのです。

会話する上手なコツ、意識すべきことは、

- 様々な話題を引き出せる質問上手になる
- 聴き役に徹し、楽しい人と思ってもらう
- 自分から話しかける癖を習慣化させる
- 相手に歩み寄る姿勢を見せる
- コミュニケーションをとり話すのに慣れる
- 話している相手の目を見ることを意識する
- 聞き取りやすいようにハキハキと話す
- 相手の話の腰を折らないように注意する

『聴く力』を高めて豊かな人間関係を築き、自分自身を高める努力をしたいと思います。

読み聞かせ

小学校教頭 長谷川 誠子

今年担任をしている1年生は本が大好きです。それぞれに好きなジャンルは違うようですが、絵本の読み聞かせは大好きで、みんな喜んで聞いてくれます。お話が始まると子どもたちの視線は絵本に集中し、真剣な眼差しが注がれます。すごく集中している子は、少しぎわついてもピクリともせず本の世界に入りこみます。4月が始まってから、図書室で選んだ五十冊近い本を子ども達に紹介し、読み聞かせをしました。図書室には楽しい本がたくさん揃っていて本を選ぶのも私にとっても楽しい時間となっています。読み聞かせの本を教室に持つていくと本好きの子はすぐに手に取り読み始めます。読み聞かせを終えた本も暫く教室の本棚に置いておくと、その本を図書室で借りたいと言って、貸出日に借りる子もいました。読書の幅が少しずつ広がっていく様子は、次はどんな本を選ぶのかと楽しみにしていました。

私が子ども達に読み聞かせを始めたきっかけは、30年以上前から本校で行われていたお話し会との出会いです。

そもそもステパノ学園でのお話し会の始まりは、以前併設されていた幼稚園の先生からのご紹介でした。秦野で活動されていたお話のボランティアグループの「おはなしころり

ん」の方々が、遠くからいらしてくださいました。お話し会のみなさんの優しい温かな雰囲気、子どもたちを自然にお話の世界へ誘ってくださいました。

お話のローソクが灯され、お話し会がスタート。絵本や紙芝居、素話、途中に楽しい手遊びが入ります。毎回いろいろな本を紹介していただき、子ども達はその時間を大変楽しみにしていました。また、その時間を、私たち教員も一緒に共有し、楽しむことができました。私自身あまり絵本などの読み聞かせの経験はなかったのですが、楽しさを実感し、学ばせて頂きクラスで始めてみました。

低学年・中学年・高学年。どの学年の子ども達もお話は大好きで、私のあまり上手くない読み聞かせでもとても楽しんでくれました。お話を読んでもらうということは、大人の私でも楽しいものですから、子ども達も楽しめるものだと思います。色々な世界のお話に触れることにより、子ども達の言葉や想像の世界は広がっていきます。お話し会を重ねるごとに、教室での読み聞かせを続けるうちに、心を豊かに育んでいく本との繋がりをこれからも大事にしていかなければという思いが強まってきました。

しかし、コロナ禍で30年以上続いていたお話し会も暫く中断せざるを得なくなりました。教室での読み聞かせもマスク生活で少なくなってしまうしました。寂しい時期が続きました。今年からやっと再開することができるよう

うになりました。

早速、「おはなしころりんさん」に、再開のお願いの連絡をしました。が、残念なことにご都合により活動の継続ができなくなりました。長い間、本当に子ども達を可愛がって下さり、楽しい時間をたくさん与えて下さった皆様から感謝を申し上げます。

お話し会がなくなってしまうことはとても寂しいことで、ぜひ続けることはできないかということを探索していたところ、以前お世話になった大磯のお話し会の方に繋がる事ができました。大磯のお話し会の「あおむし」というグループの方々にお話し出来ることになり、1回目のお話し会11月に行いました。子ども達の事を考え、プログラムを練ってくださり、学年ごとのお話し会はとても楽しい時間となりました。次のお話し会を子ども達は大変楽しみにしています。

また、SAさん主催のお話し会も再開されました。1年生から4年生の希望者が放課後、図書室に集まりお話を聞きました。子ども達もたくさん集まって、こちらも楽しい時間を過ごすことができました。

今年度は、嬉しいことに新たに2つのお話し会が始まりました。たくさんの方々も子ども達の本との関わりのお話を支え、広げて下さっています。これから多くの方々との関わりから、たくさんの方々の学びをする機会を大切にしていきたいと思えます。皆様のご協力に心から感謝致します。

「今年は・・・」

小学校教諭 西村 哲臣

ようやくコロナも一段落し、街を歩く人も電車の中でも、学校でもだいたいマスクが取れ、お互い顔を見て会話する機会も増えてきました。

昨年は久しぶりに京都や大阪、北海道などにも行き、観光しながらご当地の食事も満喫したりしました。空港や観光地では、海外からの方もとても多く、活気のある街に戻ってきた様子に、うれしささえ感じました。

マスクをしながら日常生活を送ることが当たり前だったころは、インフルエンザも流行せず、今思えばマスクをすることも一定の効果があったのだと最近では思い知らされています。

聖ステパノ学園小学校で奉職をさせていただき、今の4年生の子どもたちと出会った頃はマスク越しの会話や授業が当たり前の日常で、給食も黙食、入室の時は消毒、行事も分散され、ホールやチャペルで全校顔を合わせ礼拝することも叶わず、放課後は教室の消毒などもありました。特に夏の暑い時期にはマスクをしなければいけない状況のときにはさすがに（いったいこの先いつまでマスクをし、どうなっていくのか・・・）と思いがら過ぎず毎日でした。

しかしながら、私たちはそのような状況の

中でもその時に合った生活様式を生み出し、多くの変化に対応してきました。コロナから学んだこともたくさんあったのも事実だと思っています。学校では一時期、一斉休校になり全国の学校から子どもたちの姿が消えました。しかし、私たちは子どもたちの学びが止まる事のないように授業をする形を模索し実行しました。タブレットも普及し、お便りがデーターで配信されたり、少人数で学校行事を参観したりしたことも変化の一例でした。

社会に目を向けても、在宅ワークやリモート会議、遠隔地からの情報共有なども増え、働き方も大きく変わり、画面越しに食事をしたり、マスク越しでもたくさんさんの交流が生まれたりもしました。

理不尽なことや不幸なことが自分の身近に起こる時、いつも心の中でがっかりし（自分で自分はこんな目にあうのだろう・・・。自分ばかりなぜ不幸なのだろう・・・）と思うこともありました。しかし、神様が私たちに大きな試練を与える時、そこには意味があるものだと思います。何か大きな壁に当たると、人間はそれを乗り越える努力をしていきます。生きる為に乗り越え進歩していきます。神様から与えられた多くの試練の先にはそれ以上の大きな喜びがあります。

学校でも2学期を振り返り、子どもたちの表情を見ながら共に学ぶ教室で、たくさんさんの笑顔を見ながら勉強をしていくことができる喜びをととても感じながら過ごしました。

マスクを外すようになり、自分の顔をまじまじと鏡で見ると清潔に保ち、少しでもさわやかな印象になるようにしなければいけないと痛感します。「西村先生の顔はこわい！」と言われないように、今年も毎朝丁寧に洗顔し、スキンケアをし、笑顔で自分を励ましなが、子どもたちに対して失礼のないように心がけていきます。全国的にはインフルエンザも再び流行しました。改めてマスクをすることや感染対策が、どれだけ効果があり大切だったのかもわかりました。今思えば過去にあった良かったものも大切にしながら、今年も過ごしていきたいと思っています。

今年はどうなことがあるのでしょうか。野球はどこが優勝し、大谷選手もどんな活躍をするのでしょうか。

大河ドラマはおもしろいのでしょうか。大阪万博にはたくさんの方々が来るのでしょうか。

パリオリンピックでは日本はいくつ金メダルをとる事ができるのでしょうか。

そして、戦争している国では、お互いの平和に向けて許しあえるのでしょうか。

喜びや試練の先にある自分の成長も信じながら、まずは自らが努力をし、今年もがんばります。宜しくお願い致します。



裸足になれるはず

中学校教諭 石川 瑠一

「じゃあスクリーンに映したスライドを自分のタブレットに書き込んで。できたらみんなの画面を共有して他の人を見てみよう。」

これは自分が担当している国語の授業でのひとコマです。現在、一人一台タブレットを活用しているステパノ学園では、右のような指示を出すのは当たり前で子どもたちは戸惑うことなく取り組んでくれます。令和を迎えた今では何の変哲もない普通の光景かもしれませんが、自分が中学生だったときやさらに年齢が上の人が学生だったときには想像もつかなかったことだと思います。授業に活用している本人の私ですら、「便利だなあ」などと感じながらスライドを作成しています。

タブレットには便利な点がいくつかあります。まず、子どもたちが教科書等を忘れてしまったとき。従来までだったら、事前に伝えてくれていればコピーをしていくことができますが、授業が始まってから言われると「隣の人に見せてもらいなさい。」と指示するしかできなかった所が、今ではデータを配布することで全員が自分のペースで本文を読むことができます。

ほかには、クラスメイトと考えたことを共有するときにも大変便利です。今までは発言が得意な人にしかフォーカスすることができ

ませんでした。タブレットを使えばそれも一瞬です。全員の解答や思考が一つの画面にずらっと並べられ、気になる人やたくさん書けている人の意見に触れることができます。授業者としてはありがたい限りです。

さてここまでつらつらと便利な点を書き連ねてきましたが、これだけではタブレットのセールスマンになってしまうので、自分の考えも記させていただきます。それは、果たしてその便利さとは手放しで喜べるものだろうかということ。一歩立ち止まる必要があるかもしれないと感じることが度々あります。

現在世界ではインターネットが生活の中に誰もが使える標準装備として組み込まれました。日本でスマートフォンを所有を開始する年齢の平均は10・6歳とされています。また、国民の携帯所持者の中でスマートフォンが占める割合は96・3%にも上るそうです。このデータからも分かるように誰にとってもインターネットが身近な物、つまり小さいときから電脳の世界が目前に広がる場所で生活をしているといえます。そんな中で多くの情報という水を浴び続けた子どもたちは新しい知識という魚を得るのは得意になっても、より大きい魚を獲得している人がすぐ隣にいる環境なので、なかなか自己肯定感が育たなくなってしまうなあと思っています。成功している人ばかりが目に入り、失敗を必要以上に恐れてしまうようになります。それが電子機器が身の回りにありすぎる弊害だと考えます。人間

は失敗しないと成長できません。成功だけを食べて大きくなっても本当の成長は見込めません。失敗したときの立ち直り方を知らないからです。

偉そうに長々書いていますが、そんな自分は今年失敗だらけです。二年目となり初担任を任せて頂きましたが、授業も部活動も生活指導も至らないところだらけです。「こうやって言えばよかった。」「もっと信じて見守ればよかった。」自分の理想とかけ離れているところが多くて悔しい思いをすることが重なる日々でした。もっと成長した自分で子どもたちを見てあげたいと思うことも一度や二度ではありません。ただ、そのステージを目指すためには今失敗を重ねるしかないと思っています。失敗している自分を肯定し、失敗してしまったそのあとに取り返す。そしてその失敗から大きな学びを得る。こうやって人は大きくなっていくべきだと思います。

確かに便利な環境はぼーっと生きていくには手っ取り早いです。考えなくても、覚えなくても生きていけてしまいます。でもそんな生き方でもいいのかと自問自答してみてください。便利なものに使われるのではなく、便利なものを自分が『使って』失敗しながら歩める人生を自分の身をもって伝えていきます。靴ひもがほどこけても結び直して一歩ずつ着実に前に進んでいきましょう。人はいつでも歩き直せます。焦ることなくゆっくりと。

「小学校」

小一〜小二は、歌と楽器を用いて賛美をお捧げしました。

♪そらにひびくかねが
そらにひびくかねが かみのみこのためにな
るよ なるよ クリスマスです
そらにひびくかねが かみのみこのしらせ
こどものすきな イエスさまが
うまれたこのひ クリスマス

♪うれしいうれしい

うれしいうれしいクリスマス
かんかんかんかん かねのおと
こどものすきなイエスさまの
おうまねなされたこのよいひ
たのしいたのしいクリスマス
かんかんかんかん かねのおと



小三〜小六は、「神様の約束」と題して聖劇をおこないました。一人ひとり、できることを活かして心からクリスマスを祝いしました。

「今日は、クリスマスしゆく会でした。クリスマスは、イエスさまのおたん生日をおい
わいする日です。それをおいおいするげき
ができてよかったです。」

(小三M・M)

「今日は、クリスマス祝会でした。神さまの
約束をしました。はじめに、神さまからの
約束をみんなで歌いました。それから、『ユ
ダヤの国、ベツレヘムに』と言いました。
ちゃんと言えたので、パパとママにほめら
れました。」(小三N・T)

「12月16日の土曜日は3年生から6年生で
クリスマス祝会をしました。役はナレータ
ーでした。みんなで写真をとれてうれしか
ったです。ナレーターはセリフを言うのが
たいへんでしたがうれしかったです。羊か
いやはかせもすごく上手にできていました。
休みの人もいたけれどたのしかったです。」
(小四N・K)



「げきですごくきんちようしてしつ敗すると思
ったがせいこうしてもものすごくたのしか
ったです。最後はもろびとこぞりてを中学
生と小学1・2年生と歌っていい結果でし
た！」(小四T・Y)



「祝会では、聖歌隊をしました。聖歌隊では
トーンチャイムをしました。トーンチャイ
ムの曲は、きよしこの夜と、ああベツレヘ
ムをしたいへんだったけどたのしかったです。
Kちゃんのかわりのヨセフのいいな
づけを歌いました。」(小四W・S)



【中学校】

**4年ぶりにお客様を招待した祝会が行われました。
生徒も先生たちも全力を出し切った大成功の劇になりました。**

【役者】

土曜日はクリスマス祝会でした。本番寸前で緊張しましたが、今まで努力を積み重ね、一生懸命頑張りながら、家でも練習したり、ホールで毎日練習したり、演技を考えたので、落ち着きながら演技とセリフを言うことができました。来年は照明か役者がやりたいです。中2、中3の先輩たちは演技が上手だったので、僕も来年は先輩として頑張りたいです。中1 M・M

今日、クリスマス祝会がありました。四年ぶりの二日間開催、保護者来場可の状態で行いました。久しぶりだったので、目の前にたくさん人がいて演技をするのは少し緊張しました。ですが、僕はそれ以上の緊張と不安がありました。それは、前日に体調を崩したH君の代役を前日に任されたことでした。H君は中三で最後だし、練習の時の演技が素晴らしかったので、残念さもありました。しかし、だからこそH君の思いを、警備員役を背負うことにしました。

ぶっつけ本番だったので、本来の保険屋の役を忘れないように演じること、衣装さんと協力してやる早着替え、舞台での動き等、いろいろ違和感があったかと思うんですが、観てくれた人に「よかった」「すごかった」等言われて嬉しかったし、安心しました。そして「ノエル」が完成したのは皆がいつも全力で練習に取り組み、先生たちの思わず声が出るような適格なアドバイス、それぞれの人の気持ちが伝わってこそだったのだ、とてもよかったです。そしてあのふんいきが結構好きだったので終わってしまったのが少し寂しいです。

人生で初、一日に三役（警備員・保険屋・犬）を演じて大変でしたが、笑顔で終わることができて良かったです。中2 I・H

今日はいよいよ大目玉の祝会、クリスマス祝会の日がやってきました。自分は、「今までやってきた全てを完璧に出し切る」ことを考え、演じていました。少し間違えそうになりかけたところもありました。でも、間違えずに演じ切ることができました。本当に最後だったので大成功に終わらせることができて良かったです。中3 K・R

【音響】

土曜日、クリスマス祝会がありました。私は、音響の仕事をしました。練習の時にイメージにぴったりの曲を選びました。本番で流してみたらばっちりイメージ通りでした。H君がアイパッドで曲を流す係で、私はマイクをアイパッドにかざす仕事をしました。本番はわくわくしました。クリスマス祝会楽しかったです。中2 O・C

今日は、練習に練習を重ねてきたクリスマス祝会でした。昨日の子どもたちの祝会でも披露しましたが、今日は今日でドキドキです。本番前、中庭で全員で円陣を組んで気合いを入れました。

さあ、本番です。スタンバイして、チラツと見たらお客さんが大勢見ええました。
「オオーツ」と思いました。

僕の担当の効果音は相棒のCと協力して上手くいきました。雰囲気盛り上げることができたと思います。お客さんをめちゃくちゃひきつけることができました。中2 S・H



今日はクリスマス祝会をしました。思っていた以上に多くの人が来ていてとても緊張しました。ミスが何回ありましたが、精一杯頑張れたと思います。中3 M・A

【衣装】

今日は本番でした。朝一番に学校に来て役者さん達のヘアメイクをしていたら、あっという間に時間が来て、礼拝をして、またまた準備をして…。衣装係は大変でした…。当日にこんなせかせかしているのはたぶん衣装だけでしょう。

最後に、みんなで歌を歌うときに初めて舞台に立つたら、ビックリするほど人がいて、この中でいつも通りにセリフを言える役者さんたちを本当に尊敬しました。そして、代役として前日に頼まれたことを完璧にできるHは本当にすごいと思いました。中2 O・M



【美術・道具】

今日は祝会がありました。今回は大道具で作るのも大変だけど、本番にちゃんと道具を出したり戻したりできて良かったです。中1 G・T



今日は、クリスマス祝会の当日です。僕は大道具・小道具の係で、台座を運ぶのを担当しました。僕は改めて神様の身近さを理解しました。中2 M・A

【照明】

今日はクリスマス祝会が行われました。全体を通して照明のつけるタイミング、消すタイミングなどは上手くいったのですが、個人的なミスを何か所してしまったので、来年の聖劇の時には本番でミスをしないためにも照明のつけるタイミング、消すタイミングを今年以上によく確認しようと思います。中2 I・H



「君は、本当は、いい子なんだよ」

この言葉がなければ、今の自分はなかった、と現在九十歳の黒柳徹子さんは言います。

小学校入学から三か月の後、トットちゃんの発想と言動に「困った」担任の先生から「別の学校にお連れください」と告げられ、新たに通い始めたトモエ学園の校長・小林宗作先生から掛けられた言葉です。

小林先生の教育のことを書き記しておきたいとの想いで執筆された『窓ぎわのトットちゃん』（一九八一年）は、世界各国で翻訳され、二五〇〇万部を超えるベストセラーとして知られています。「私の人生でトモエ学園時代ほど、毎日が楽しいことはなかったため、この本より「おもしろいことは書けない」と考えてこられたそうですが、四十二年の時を経て、トットちゃんの「それから」の物語が、『続 窓ぎわのトットちゃん』として二〇二三年十月に刊行されました。続編では、幸せな日々から一転した戦争中の体験、疎開先での生活、聖公会系列の香蘭女学校での様々な出会いから、NHK専属の劇団員として女優になり、ニューヨーク留学に旅立つまでが描かれており、成長の過程で自身のユニークさに悩ましさと不安を抱えながらも、

「そのままできて」と励ます多彩な出会いに恵まれたことが、今の姿につながります。

恩師の小林先生は、幼児教育としてのリトミックを日本に普及させた第一人者ですが、キャリアの始まりは、群馬県の小学校の代用教員であり、数年後には東京で教員として働きながら学び、二三歳で東京音楽学校（現・東京芸術大学音楽部）へ入学したそうです。音楽専科の教員として公立小学校と成蹊小学校で教鞭をとり、歌唱指導が中心であった当時としては先駆的なオペレッタ（音楽劇）の指導を行い、音楽を通じた教育の理想の姿を模索していたようです。十二年の教員生活から、「子供等は実によくのびのびと育って行く、教師さへよければ、いくらでもものびるものだ」と実感しながら、「此のいくらでものびる子供を充分に指導するに足る器であるか」と悩み、名のある音楽の先生の授業を参観して回り、更なる研鑽のためヨーロッパに留学します。この留学費用を全額支援したのが、本校創立者・澤田美喜先生の従叔父である岩崎小彌太氏でした。二度の留学で数々の新しい教育法と出会い、帰国後は成城幼稚園・小学校でのリトミック実践と並行して多数の論文を執筆して研究を深め、自身の教育観を体現するトモエ学園の設立に至ります。一九四五年の空襲で炎に包まれた校舎を見つめ、「次はどんな学校を創ろうか」と呟いた小林先生の姿は、現在公開中の映画『窓ぎわのトットちゃん』でも知ることができます。

STEPHEN'S NEWS

《表彰》

○第二十二回 キラキラッとアートコンクール

【優秀賞】 中一 K・R

○実用英語技能検定

【四級】 中一 K・R

【準二級】 中二 N・O

○第六十二回大磯町民ロードレース大会

【男子一年の部】一位 I・N

【男子二年の部】一位 M・A

二位 N・O 三位 I・J

【男子三年の部】一位 K・H

二位 O・T 三位 A・K

【編集後記】

令和六年一月一日に石川県能登地方を震源とする大規模な地震により、天に召された方の魂の平和をお祈りいたしますとともに、被災されました方々に心からお見舞いを申し上げます。また、被災地にて救済と復興支援等のためにご尽力されている方々に深く敬意を表します。被災地の安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

校長 佐藤 紀明

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-611-1298

FAX 0463-611-9739

http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇二四年一月十九日（金）発行第283号